

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果について【中学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るためには、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本市立中学校生徒の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

参考：「とちぎっ子学習状況調査」について

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善（学力向上PDCA）サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日・調査対象 令和6年4月18日（木） 第2学年

3 調査内容

（1）教科に関する調査

- ① 調査教科 国語・社会・数学・理科・英語
- ② 出題範囲 調査する学年の前学年までの学習内容
- ③ 出題内容 学習指導要領に基づき、教科の目標及び内容に即した知識及び技能、思考力・判断力・表現力等に関わる内容

（2）質問調査

※ICT端末を用いたオンライン方式にて実施

- ① 生徒質問調査 学習意欲、学習方法、学習環境、家庭学習等に関すること
- ② 学校質問調査 指導に関する取組や学習環境等に関すること 等

4 本市の参加状況

- （1）学校数 宇都宮市立中学校 25校（25校中）
- （2）生徒数 国語 3,825人 社会 3,824人 数学 3,826人 理科 3,829人 英語 3,831人

5 留意事項

（1）調査結果について

本調査は、対象となる学年や実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

（2）教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を示すために、教科全体及びカテゴリー別の平均正答率、正答率度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
 - ・ 「傾向と課題」は、領域等ごとに良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。
※「良好な状況が見られるもの」と「課題が見られるもの」は、正答率が県平均より高い（低い）設問などを基に考察した。
 - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを中心に記載した。

（3）質問調査について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び県との比較において本市の特徴が見られる質問を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、指導の工夫・改善のポイントを記載した。

1 中学校第2学年 国語

平均正答率

(%)

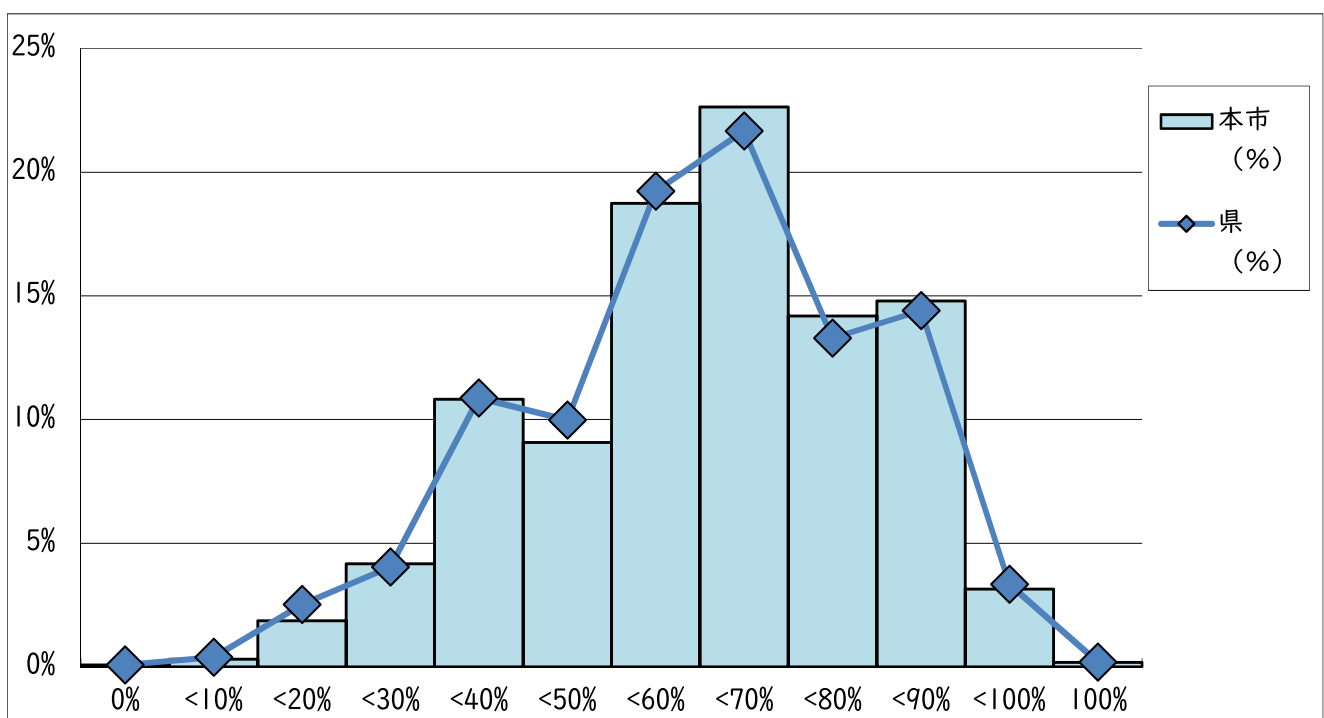
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	60.3	59.6	0.6

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.7	74.1	0.6
	我が国の言語文化に関する事項	72.5	69.1	3.4
	話すこと・聞くこと	60.9	59.5	1.4
	書くこと	52.8	56.2	△3.4
	読むこと	46.2	44.5	1.7
観点別	知識・技能	74.2	73.1	1.1
	思考・判断・表現	51.5	51.2	0.3

正答率度数分布（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

言葉の特徴や使い方に関する事項 (県平均との差 0.6 ポイント)

- 漢字の読み書きに関する設問の平均正答率は 76.1%で、県平均を 0.9 ポイント上回る。漢字を正しく読んだり、書いたりすることに良好な状況が見られる。
- 適切な敬語と敬語の種類を選ぶ設問の正答率は 60.3%で、県平均とほぼ同等であるが、特に敬語の種類を識別することに課題が見られる。

我が国の言語文化に関する事項 (県平均との差 3.4 ポイント)

- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く設問の正答率は 68.6%で、県平均を 4.2 ポイント上回る。歴史的仮名遣いを読むことに良好な状況が見られる。

話すこと・聞くこと (県平均との差 1.4 ポイント)

- 話し手の話し方として適切なものを選ぶ設問の正答率は 62.0%で、県平均を 3.9 ポイント上回る。聞きながら話の構成を捉えることに良好な状況が見られる。

書くこと (県平均との差 △3.4 ポイント)

- 指定された長さや二段落構成という条件で文章を書くことの平均正答率は 55.0%で、県平均を 3.9 ポイント下回る。段落の役割を理解し、段落ごとに必要な情報を書き表すことに課題が見られる。
- 自分の考えを明確にして書く設問の正答率は 46.1%で、県平均を 4.0 ポイント下回る。自分の考えについて根拠を明確にして書くことに課題が見られる。

読むこと (県平均との差 1.7 ポイント)

- 比喩の表現を用いた文を選ぶ設問の正答率は 68.3%で、県平均を 2.0 ポイント上回る。比喩の表現が用いられた文や表現の効果を理解することに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

言葉の特徴や使い方に関する事項

敬語を使う場合、尊敬語や謙譲語、丁寧語の役割や必要性を自覚し、相手と自分との関係を意識しながら、相手や場面に応じて適切に使うことが大切である。また、敬語に関する体験的な知識を整理するとともに、人間関係の形成や維持における敬語のもつ働きを理解することも重要である。そのようなことを理解した上で、手紙や電子メールを書く活動や伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動などとの関連を図ることや、日常生活及び学校行事などの機会を捉えて指導することが重要である。

書くこと

文章を書く設問では、指定された長さで書くことと、二つの段落に分けて書くことが条件として示された。具体的には、一段落目で資料から読み取ったことを書き、二段落目に自分の考えとその理由を書くことが求められた。学習指導要領の、第1学年の「書くこと」の指導事項には、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることや、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することが示されている。複数の資料を比較し、調べたことを基に考えを形成して書く活動などを通して、段落の役割を踏まえて構成や展開を考える学習や、自分の考えの根拠となる複数の事例や専門的な立場からの知見を引用しながら考えを書く学習が必要である。

2 中学校第2学年 社会

平均正答率

(%)

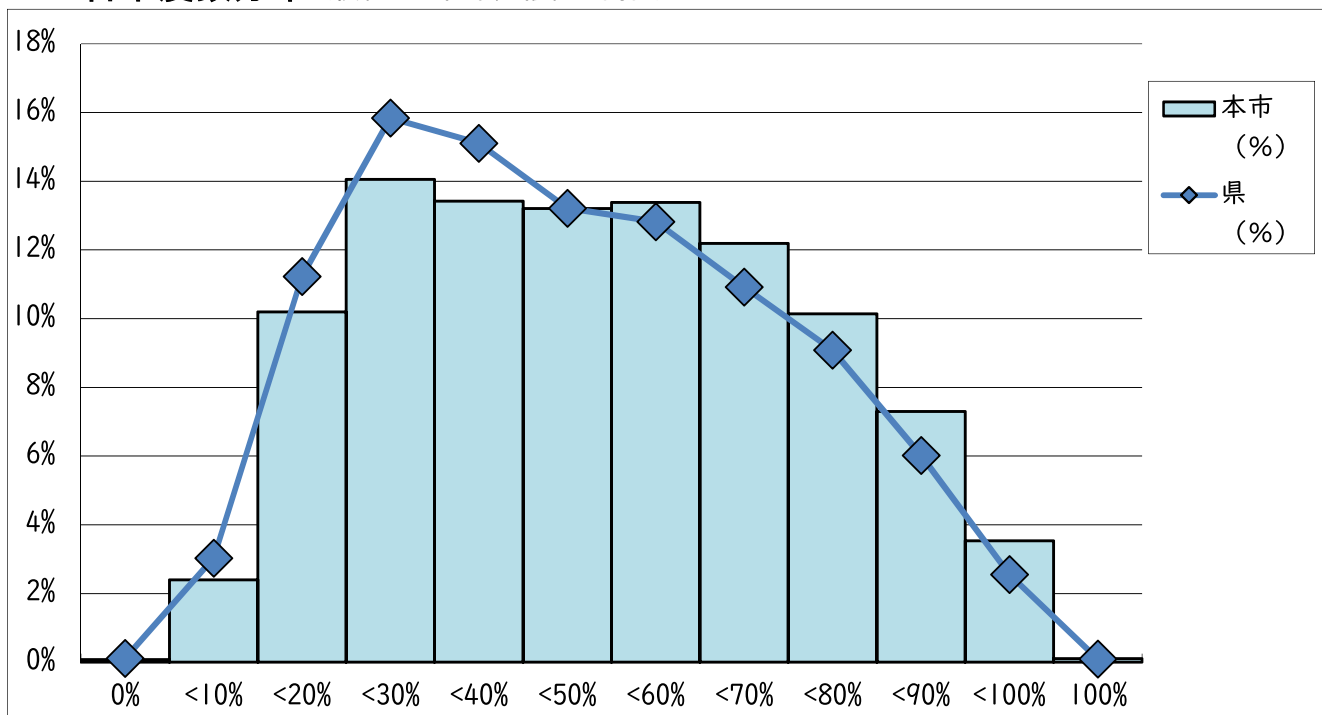
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	48.5	45.8	2.7

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	地理	48.6	46.2	2.4
	歴史	48.3	45.3	3.0
観点別	知識・技能	49.8	47.5	2.3
	思考・判断・表現	46.1	42.7	3.4

正答率度数分布（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

地理的分野（県平均との差 2.4 ポイント）

- 地図を基に、大西洋と太平洋の両方に面している大陸名について、例示されている南北アメリカ大陸の他に、「ユーラシア大陸」を書く設問の正答率は63.8%で、県の平均を2.4ポイント上回る。三大洋と六大陸の名称と位置に関する基礎的・基本的な知識や技能の定着について良好な状況が見られる。
- アフリカ州の国々についてまとめたメモの空欄に、国境線に直線が多い理由として、正しい文章を選択する設問の正答率は61.6%で、県の平均を4.3ポイント上回る。アフリカ州の国々の国境線が定められた経緯に関する基礎的・基本的な知識や技能の定着について良好な状況が見られる。
- ヨーロッパ州の国々からドイツに流入する人口についてまとめた表と地図から読み取ってまとめたメモの空欄に当てはまる正しい情報を選択する設問の正答率は、32.7%であり、同一の事象に関する複数の資料（表や地図など）を見比べたり結び付けたりして、必要な情報を読み取る技能に課題が見られる。

歴史的分野（県平均との差 3.0 ポイント）

- 吉野ケ里遺跡の写真から読み取った情報を、弥生時代の人々の暮らしについてまとめたメモの空欄に合うように記述する設問の正答率は、61.7%で、県平均を6.0ポイント上回る。稲作の広まりとともに変化していく人々の生活の様子に関する知識の定着と活用に良好な状況が見られる。
- 平安時代から鎌倉時代初期の武士に関する出来事について述べた文章を古い順に並び替える設問の正答率は11.2%であり、時代の区分を超えて推移していく事象に関する知識の定着に課題が見られる。

指導の工夫・改善

地理的分野

授業では、単元を貫く学習課題を設定し、予想や見通しを立てて課題を追究したり解決したりする活動を通して、地形図や主題図、図表やグラフなどの様々な資料から、課題の解決に必要な情報を読み取りながら、知識と技能を一体的に身に付けたり、地理的な見方・考え方を働かせて考察したりして表現する学習活動を充実させることが重要である。特に、個別の知識の統合を促し、単元の学習内容について概念的に理解することができるよう、説明したり議論したりする学習活動を設定し、指導と評価の充実を図ることが大切である。

歴史的分野

武士の台頭や土地制度の移り変わりなどのように、古代や中世などの時代区分や、平安や鎌倉などの時代を超えて展開される事象については、生徒が教科書の章や節などの枠組みに捉われず、歴史の大きな流れの中で理解することができるよう、推移や相互の関連などに着目した学習課題を設け、年表などにまとめる学習活動を充実させるなど、指導方法を工夫することが大切である。

3 中学校第2学年 数学

平均正答率

(%)

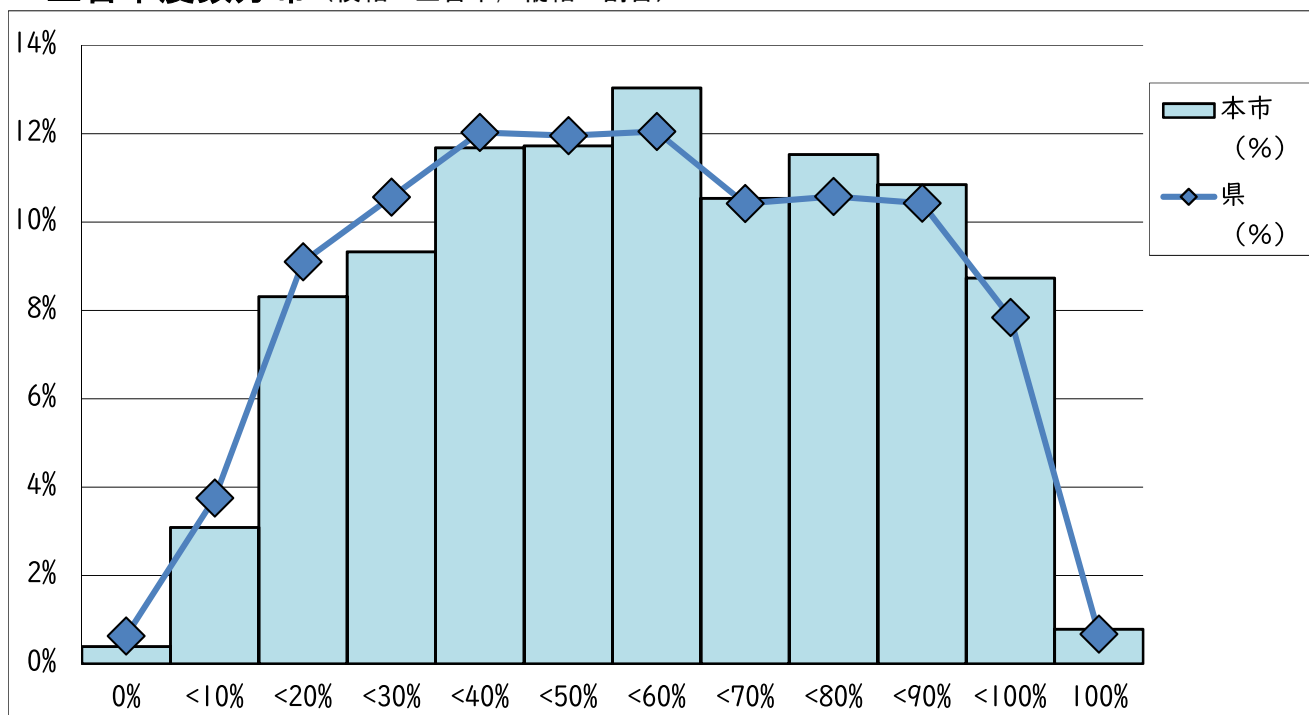
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	52.4	50.5	1.9

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	数と式	58.2	55.5	2.7
	図形	55.1	53.5	1.6
	関数	41.9	40.2	1.7
	データの活用	50.5	49.4	1.1
観点別	知識・技能	58.8	57.3	1.5
	思考・判断・表現	42.7	40.3	2.4

正答率度数分布（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

数と式 (県平均との差 2.7 ポイント)

- 与えられた文章題に対して、適切な1次方程式を立式する設問の平均正答率は40.9%であり、県平均を6.8ポイント上回る。具体的な問題場面から、求めたい数量に着目して一次方程式を立式することに良好な状況が見られる。

図形 (県平均との差 1.6 ポイント)

- おうぎ形の弧の長さが半径の等しい円の円周の何倍かを答える設問の平均正答率は43.5%であり、県平均を3.4ポイント上回る。円の一部としてのおうぎ形について、円の弧の長さが中心角の大きさに比例することを理解し、おうぎ形の弧の長さを求めることに良好な状況が見られる。

関数 (県平均との差 1.7 ポイント)

- 与えられた考え方をもとに正しいグラフを選択する設問の平均正答率は39.1%であり、県平均を1.8ポイント上回る。比例、反比例のグラフや式を用いて表すことに良好な状況が見られる。
- グラフや数値をもとに速さを求める設問の平均正答率は31.3%であり、県平均を1.5ポイント上回るが、無回答率が26.9%で県平均より0.2ポイント上回る。グラフから比例、関係の特徴を見だし考察することに課題が見られる。

データの活用 (県平均との差 1.0 ポイント)

- 通学時間の記録をもとに、最頻値と中央値が同じ階級に含まれているヒストグラムを選び、その階級を答える設問の平均正答率は72.3%であり、県平均を3.4ポイント上回る。データの傾向を読み取る平均値、中央値、最頻値の意味理解に良好な状況が見られる。
- ヒストグラムの山の形が異なる理由を説明する設問の平均正答率は31.9%であり、県平均を1.2ポイント下回る。階級の幅の違いからデータの分布の傾向を考察することに課題が見られる。

指導の工夫・改善

関数

関数の式やグラフを活用して日常生活の問題解決を図る学習においては、変化の割合などの意味を十分に理解した上で、与えられた情報から事象の特徴を的確に捉え、表・図・式・言葉等で数学的に表現する活動を通して問題解決に取り組むことが重要である。その際、解決した過程を振り返り、問題解決の方法を的確に説明する活動を取り入れ、数学的に表現することのよさを実感できるようにすることも、筋道を立てて考える力を育むために効果的である。

データの活用

データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明することが重要である。その際、判断の根拠となることについて考えたり、数学的な表現を用いて話し合ったりする場面を設定するなど、根拠を明らかにして説明する力を高めたい。また、分析した結果から得られる結論が妥当であるなど、批判的に考察し判断するような数学的活動に取り組むことも大切である。

4 中学校第2学年 理科

平均正答率

(%)

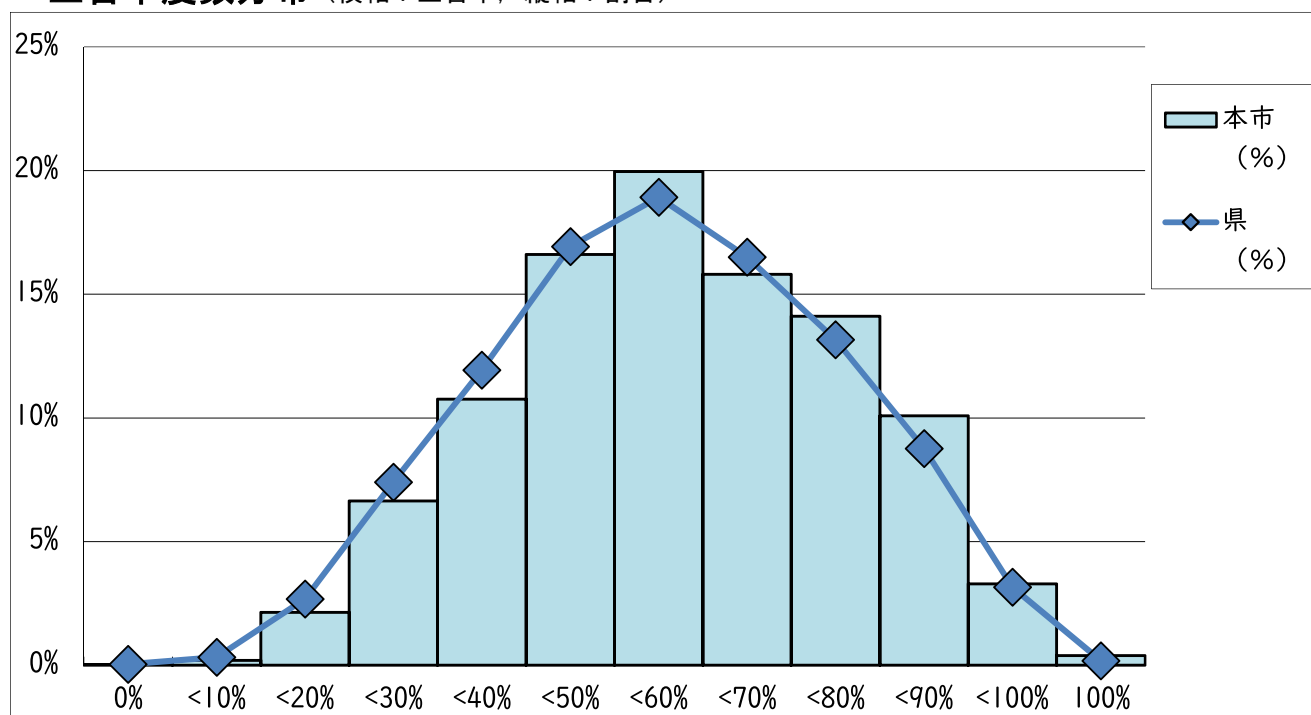
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	56.9	55.5	1.4

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	エネルギー	57.0	55.7	1.3
	粒子	58.6	56.9	1.7
	生命	77.5	75.2	2.3
	地球	41.4	40.9	0.5
観点別	知識・技能	64.1	62.8	1.3
	思考・判断・表現	50.1	48.7	1.4

正答率度数分布（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

エネルギー（県平均との差 1.3 ポイント）

- 音の伝わり方の実験の正しい考察を選ぶことについての設問の正答率は 83.9%で、県平均を 2.0 ポイント上回る。実験の結果を正しく思考・判断することに良好な状況が見られる。

粒子（県平均との差 1.7 ポイント）

- 実験で注意することとして正しくないものを選ぶことについての設問の正答率は 93.3%で、県平均を 0.9 ポイント上回る。実験を行う時の危険な行動についての理解に良好な状況がみられる。
- 水上置換法の名称を答えることについての設問の正答率は 85.2%で、県平均を 3.0 ポイント上回る。気体の集め方についての理解に良好な状況が見られる。
- 酸素であることを確かめる方法を選ぶことについての設問の正答率は 64.9%で、県平均を 0.6 ポイント下回る。酸素の性質についての理解に課題が見られる。

生命（県平均との差 2.3 ポイント）

- ゴボウの葉の部分に着目し、分類を選ぶことについての設問の正答率は 67.1%で、県平均を 4.9 ポイント上回る。単子葉類と双子葉類の見分け方についての理解に良好な状況が見られる。

地球（県平均との差 0.5 ポイント）

- 震央の位置を選ぶことについての設問の正答率は、66.4%で、県平均を 1.8 ポイント上回る。地震の揺れが届くまでの時間と震源からの距離の関係についての理解に良好な状況が見られる。
- 示相化石の名称を答えることについての設問の正答率は 36.6%で、県平均を 0.5 ポイント下回る。地層ができた当時の環境を推測できるような化石の名称についての理解に課題が見られる。

指導の工夫・改善

粒子

気体の発生と性質についての学習では、気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性を理解させるとともに、気体の発生方法や捕集法などの技能を身に付けさせることが重要である。それぞれの気体の特性を調べ、実験結果と気体の種類を関連付けながら学習を進めることが望まれる。

地球

地層の堆積環境の推定には、地層の構成物やその粒の大きさ、形、及びそこに含まれる、サンゴ、シジミ、ブナなどの示相化石を用いられている。示相化石になっている生物について、現在の堆積環境や生物の生態についても捉えられるよう指導していくことが望まれる。

5 中学校第2学年 英語

平均正答率

(%)

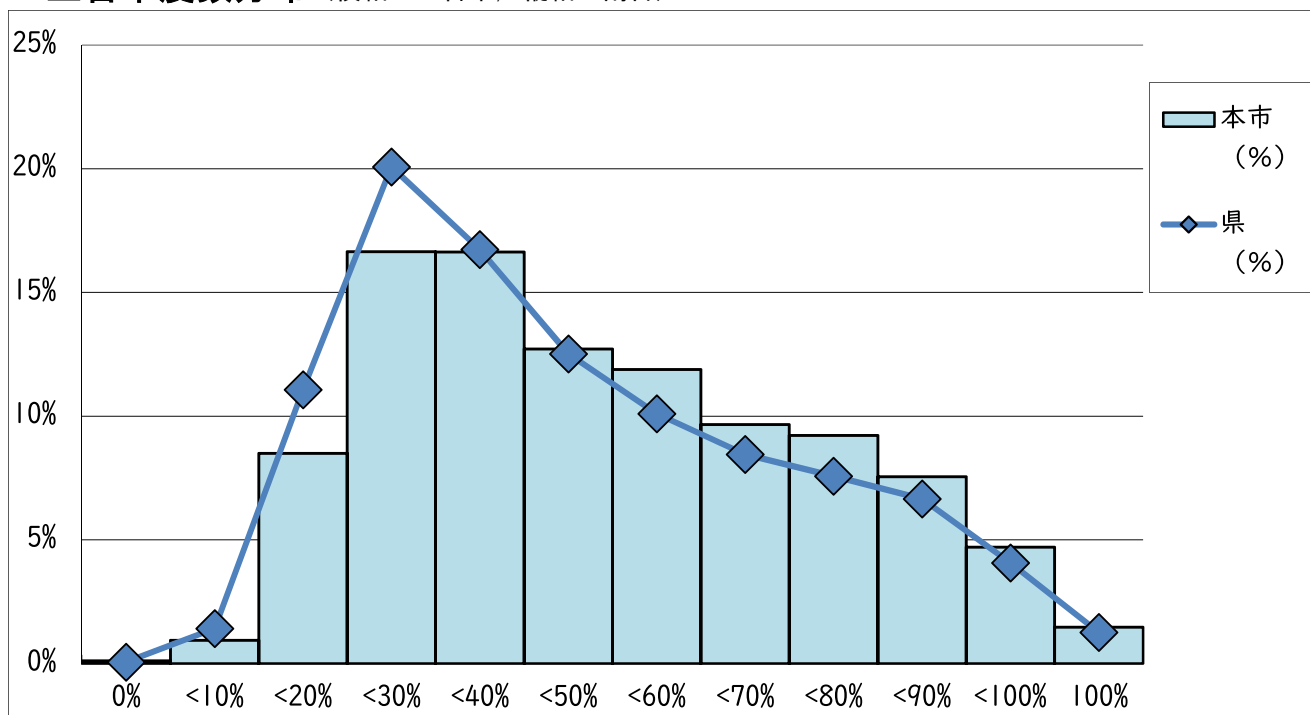
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	49.0	45.6	3.4

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	聞くこと	64.0	61.6	2.4
	読むこと	48.4	46.6	1.8
	書くこと	42.0	37.8	4.2
観点別	知識・技能	52.9	48.9	4.0
	思考・判断・表現	42.4	40.1	2.3

正答率度数分布（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

聞くこと (県平均との差 2.4 ポイント)

- 絵を適切に表している英文を聞き取る設問の正答率は 91.5%で、県平均を 3.9 ポイント上回る。また、英文の要点を聞き取り、適切なものを選ぶ設問の正答率は 72.5%で、県平均を 4.4 ポイント上回る。聞き取った英語の内容を正確に把握することや要点を捉えることに良好な状況が見られる。

読むこと (県平均との差 1.8 ポイント)

- 対話とグラフから情報を正確に読み取る設問の正答率は 51.6%で、県平均を 3.2 ポイント上回る。また、日常的な話題の対話から必要な情報を読み取る設問の正答率は 48.4%で、県平均を 3.0 ポイント上回る。英文を読み、正確に情報を読み取ることや必要な情報を読み取ることにより良好な状況が見られる。
- 英文を読んで概要を理解し、英文にふさわしいタイトルを選ぶ設問の正答率は 50.7%で、県平均を 1.1 ポイント下回る。文章全体を読み、書き手が述べている大まかな内容を捉えることに課題が見られる。

書くこと (県平均との差 4.2 ポイント)

- 対話が成り立つように、英文を正しい語順で書く設問の正答率は 61.0%で、県平均を 6.4 ポイント上回り、与えられた情報に基づいて英文を正確に書く設問の正答率は 55.5%で、県平均を 5.4 ポイント上回る。英文を正しい語順で書くことや、情報に基づいて英文を書くことに良好な状況が見られる。
- 対話の流れに合った英文を書く設問や、自分の考えを整理し、まとまりのある英文を書く設問では、無解答率が 3 割を超えており、正答率よりも高くなっている。状況を捉えて、必要な表現を判断し書くことや書くことへの意欲に課題が見られる。

指導の工夫・改善

読むこと

読むことの指導にあたっては、まとまりのある英文を読んで、必要な情報や要点、概要を適切に読み取る力をさらに高めるため、手がかりとなる語句や表現をヒントとして与えたり、事前に内容についてやり取りしたりするなどの工夫が必要である。また、生徒の既有知識や経験を英文の内容と関連付けるなど、その内容を自分に身近なこととして捉えさせ、読むことに意義をもたせる指導が有効である。

書くこと

書くことの指導にあたっては、書く前に意見や考えのやり取りを行ったり、書く内容のアイディアを整理する時間を設けたりして、自分の考え等をまとめ、英文で表現することへつなげることが必要である。また、何のために、誰に向けて書くかなど、目的や相手を明確にすることで、書くことへの意欲を高めていくことも有効である。

6 中学校質問調査

【生徒質問調査】

調査結果（全 113 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、県平均と 3 ポイント以上差があり本市生徒の特徴を表すものを取り上げた。（教科等別の学習に関する質問を除く）
- ・ 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
1	授業を集中して受けている。	91.3%	0.2
2	学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。	63.0%	0.3
3	勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。	74.8%	2.5
4	勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある。	80.7%	0.0
5	学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。	91.9%	3.6
6	授業では、授業の目標（めあて・ねらい）が示されている。	96.1%	△0.6
7	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている。	87.9%	△2.4
8	授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。	80.2%	△1.1
9	グループなどでの話合いに自分から進んで参加している。	79.2%	1.3
10	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。	45.0%	1.3
11	授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しくない。	32.0%	△2.0
12	家で、学校の授業の復習をしている。	71.1%	△1.1
13	家で、学校の授業の予習をしている。	46.7%	3.8
14	家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	69.1%	1.6
15	家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。	60.0%	3.0
16	家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。	64.2%	0.4
17	学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）、1日当たりの勉強時間（学習塾や家庭教師を含む） ※2時間以上	65.4%	0.7
18	自分には、よいところがあると思う。	79.9%	1.0
19	自分のよさを人のために生かしたいと思う。	90.5%	0.3
20	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	64.4%	0.3
21	自分の行動や発言に自信をもっている。	54.0%	1.1
22	地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。	67.5%	0.4
23	先生は学習のことについてほめてくれる。	83.6%	1.2
24	家の人、ほめてもらいたいことをほめてくれる。	80.1%	0.7
25	家の人と将来のことについて話すことがある。	70.2%	3.7
26	家の人と学習について話をしている。	83.8%	5.9
27	普段（月～金曜日）、1日当たりのテレビゲームをする時間 ※1時間未満	29.8%	2.1
28	普段（月～金曜日）、1日当たりの携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間 ※1時間未満、持っていない	48.7%	△0.4

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの 下線部…「結果概要」との主な関連

学ぶ意欲・授業について (No. 1～No.12)

- No. 3～5 の肯定的な回答の割合は県平均と同程度または上回っている。学ぶことに興味をもち、自己のキャリアや生活に生かそうとするなど、生徒の知的好奇心を大切にした指導や、学習への有用感を高める指導が工夫されているものと考えられる。
- No. 2, 10 の肯定的な回答の割合は県平均を上回っている。グループ活動などの学習を取り入れ、生徒が互いに話し合い、進んで学習に取り組む指導が推進されているものと考えられる。
- No. 7～9 の肯定的な回答の割合は県平均を下回っている。授業の導入時に生徒自身が見通しを立てるとともに、本時の授業で学ぶことを生徒と共有し、見通しに対する振り返りを計画的に行い、生徒自身が学びや自己の変容を改めて確認する機会が必要である。
- No. 11, 12 の肯定的な回答の割合は 50%未満に留まっているとともに、No. 12 については県平均を下回っている。自分の考えを話したり書いたりして表現する力を育む指導を工夫する必要がある。

家庭学習について (No.13～No.18)

- No. 14～16 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。家庭学習に主体的に取り組む態度を育むための指導が推進されているものと考えられる。

自分自身のこと・家の人や先生について (No.19～No.27)

- No. 19, 24 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。No. 20 の肯定的な回答の割合は、90%以上と、特に高い。生徒のよさや努力を認め、励ます指導が推進され、自己肯定感が高まっているものと考えられる。
- No. 25～27 の肯定的な回答の割合は県平均より高く、上回り方が大きい。キャリアに関する指導や学習の充実に向けた指導が、家庭と連携・協力しながら進められているものと考えられる。

毎日の生活について (No.28, 29)

- No. 29 の携帯電話やスマートフォンの使用時間について、1日に1時間未満の生徒の割合は県平均を下回っている。「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」に基づく取組等により、節度のある使用についての指導の工夫が必要であるものと考えられる。

【学校質問調査】

調査結果（全 67 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、県平均と 10 ポイント以上差があり本市の特徴を表すものを取り上げた。（本調査問題及び全国学力・学習状況調査問題の活用に関する質問を除く）
- ・ 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。（No. 9～15 の肯定的な回答の割合は、「学校全体で」「どちらかといえば、学校全体で」の割合の合計）

＜生徒の様子＞

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
1	生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。	92.0%	2.8
2	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている。	92.0%	△2.3
3	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかり伝えることができている。	88.0%	0.7
4	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	88.0%	4.6

＜学校の取組＞

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
5	生徒の様々な考え方を引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている。	92.0%	△2.9
6	自分の考えを文章にまとめる指導（記述）を重点的に行っている。	88.0%	1.4
7	授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている。	88.0%	5.8
8	「ねらい」「指導」「評価」のつながりを意識した授業づくりを行っている。	96.0%	△0.8
9	宿題の意義について教員間で共通理解をしている。	68.0%	△4.6
10	生徒の実態を把握して、宿題を出している。	60.0%	△12.6
11	目的を生徒に伝えて、宿題を出している。	64.0%	△5.4
12	やり方を生徒に十分説明して、宿題を出している。	60.0%	△5.0
13	宿題について、評価・点検の仕方を教職員間で情報交換している。	56.0%	△7.1
14	生徒が自主的に取り組むような宿題を出している。	52.0%	△7.2
15	宿題の意図について保護者へ説明をしている。	72.0%	0.0
16	教職員間で、互いの授業を見せ合っている。	84.1%	3.9
17	教科の枠を超えて学年などの小集団で授業研究を行うなど、組織的に授業づくりに取り組んでいる。	75.2%	△15.2
18	授業研究を伴う校内研修の回数 ※4回以上	20.0%	△31.5
19	本調査実施後、調査対象学年の生徒に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、課題の改善状況を確認している。	36.0%	△30.9
20	本調査実施後、調査対象学年の1学年下の生徒に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、習得状況を確認している。	40.0%	△26.2
21	調査結果の分析を全教職員で行っている。	72.0%	△15.9

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの 下線部…「結果概要」との主な関連

生徒の様子 (No.1～4)

- No. 1, 2 の肯定的な回答の割合は 90%以上と、特に高く、県平均を上回っている。話し方や聞き方などの学習規律の徹底について、学校全体での組織的な指導が推進されているものと考えられる。

授業における学習指導 (No.5～8)

- No. 7 の肯定的な回答の割合は 88.0%であり、県平均を 5.8 ポイント上回っている。主体的に問題発見・解決に取り組む態度の育成が図られているものと考えられる。
- No. 8 の肯定的な回答の割合は 96.0%であり、特に高い。指導と評価の一体化を念頭においた授業づくりが意識されているものと考えられる。
- No. 6 の肯定的な回答の割合は 88.0%であり、県平均を 1.4 ポイント上回っているが、引き続き、自分の考えを整理し、書いてまとめることで、表現する力を育む指導の充実を図っていく必要がある。

家庭学習の指導 (No.9～15)

- No. 10～14 の肯定的な回答の割合は県平均を 5 ポイント以上下回っており、No. 10 は下回り方が大きい。宿題の意義や取り組み方などについて生徒に対して理解を図るとともに、宿題や課題について教科間で共有し、内容について確認するなど、生徒の負担に配慮していくことが必要になるものと考えられる。

校内研修の充実 (No.16～18)

- No. 16 の肯定的な回答の割合は県平均より 3 ポイント以上上回っている。教員同士が互いに授業を見せ合う取組が概ね定着しているものと考えられる。
- No. 17 の肯定的な回答の割合は県平均より 15 ポイント以上、No. 18 の校内研修を 4 回以上実施する割合は県平均より 30 ポイント以上と大きく下回っている。教科の枠を超えた小集団での授業研究を工夫するなど、校内で共通の課題を解決するために、組織的な授業づくりの推進が必要となる。

学力調査の活用 (No.19～21)

- No. 19～20 の肯定的な回答の割合は、県平均を大きく下回っている。学力調査の問題の活用を工夫し、学習内容の習得状況を把握したり、校内の課題の改善状況を確認したりする検証サイクルを回していく必要がある。
- No. 21 の肯定的な回答の割合は、県平均を 15.9 ポイント下回っている。全職員で組織的に分析することにより、校内の課題を共有するとともに、課題の改善に向けた共通取組を進める必要があるものと考えられる。